

トレード時間帯について

相場が閑散としているときはトレードをしない。

ロンドンやNYの休場、イースター休暇、クリスマスなど。

相場は多くの参加者によって売買されることによって、正常なチャート形状が描かれていきます。

ところが相場の参加者が少ないと、少しの売買で値が上下にぶれてしまって、ヒゲの多い不規則なチャートができあがってしまい、テクニカルが通用しにくくなります。

したがって、相場の参加者が少ないときのトレードは控えたほうが無難です。

一番動かないのは、毎年4月のイースター休暇ではないかと私は思っています。クリスマス以上に動かないようなイメージがあります。

そのかわり、休暇明けは大きく動いてくれることがありますので、ぜひ狙いたいところですよ。

東京市場も動かないことが多く、ポジションを持っていたとしてもいらいらさせられます。

オーギーなど通貨によっては東京時間の午前9時頃から動き出すこともあります。が、かといってそれを期待していると動きません。

1週間に1回くらいの動きだしに期待して、あとの4回空振りするのはあまり効率的だとは言えません。

私なんかは数時間持たされてしびれを切らし、次の欧州時間に備えて決済すると、そこから動き出すなんてことが幾度もありました。

動かないときにヤマをはってエントリーするのではなくて、動き出してから、そっちの方向に乗りましょう。

ロンドン時間とニューヨーク時間

トレードは午後 4 時半と 10 時半から（夏時間）

為替の世界では、私たち日本人が 24 時間いつでもトレードできるように、世界中からいつでもトレードでき、株式取引所などのように決められた時間はありません。そのため、たとえば欧州の開始時間を午後 3 時（夏時間）という人もいれば、午後 4 時ごろという人もいます。

欧州と言っても、金融都市であるドイツのフランクフルトやスイスのチューリッヒは、イギリスのロンドンより 1 時間時計は進んでいるので、その時点で欧州内でのスタート時間は 1 時間のずれがあります。

このように少しあいまいなところもあるのですが、為替のレートが動き出す時間も決まりがあるわけではないので、その辺はすべてアバウトだと言わざるを得ません。

ただし、次のようなことは言えます。

東京時間で相場が動くことはまれ

残念ながら、東京時間はスケールが小さいため、ふだんの相場はあまり動きがありません。

シンガポールや香港での動きをあわせても、為替取引額は欧州や米国にはるか及びません。

つまり、相場をひっぱる力がないというか、世界中の通貨のレートを決める決定権がまるでないかのようになぎ状態がつづきます。

そ〜っと、そ〜っと動かさないように欧州に渡そうとしているかのようなイメージです。

もちろん日本人が活動している時間ですから、相場の主役は円ですが、オセアニアは日本より早くスタートしているため、豪ドルやNZ ドルがいち早く動き出すということもあります。

各国の経済指標が日本時間の午前中に発表されるということもあるので、それで動きが活発化することもあります。

しかし、かといって、それを期待して相場をみていると肩透かしにあうことがおおいのです。

それどころか、日本時間のお昼の時間帯にアジア勢がもっていたポジションは多くの場合、ロンドン時間に崩されます。

彼らはアジア勢とは反対にポジションをとって、アジア勢が苦しくなり損切りしたときに利食うのです。

お人よしの日本人はいいようにやられてしまいます。

ロンドン午後 4 時半以降に注目

欧州時間になると、特にロンドンでは、ディーラーの気質が日本人とはまるで異なっているようで、相場の決定権は我にありと言わんばかりに動かしてきます。

ただし、ここで注意すべきは、ロンドン時間がはじまった最初の 1 時間半くらいは彼らだって上に少し上げて他がついてくるか様子を見たりしているため、上に行ったり下に行ったりして相場が安定しません。

もちろん、日本時間の午後 2 時や 3 時ごろから迷いなく一直線に上がる下がるということはありませんよ。

ですから一概に決めつけることはできないのですが、かといって、そこでの動きにのると「だまされた」ということがしばしば起こってしまいます。

ですから、仮にいち早く動き出していたとしても、午後 4 時半以降の相場がどっちに進もうとしているかを見てから、エントリーするほうがより確実に勝率はあがります。

ちなみに私は過去相場を検証するときも、あるいは実トレードをするときも午後 5 時以降からのスタートがほとんどです。

話を戻しますが、最初は様子見だった欧州のディーラーは午後 5 時以降に方向がはっきりすると、徹底的にそっちの方向で売買してくるため、そこから 3 時間近くは同じ方向に動くことが多くあります。

1 時間に 1 回くらい大きめの調整が入りますが、それは早めの利食いであることがほとんどです。

ですから、その後はまた同じ方向に乗っていき、その動きは日本時間の午後 8 時ごろまで続きます。

日本時間の午後 8 時台になって、それまでの相場が反転し始めていたら、それは欧州の利食いがはいつているのです。

そしてニューヨークへとバトンを渡します。

ニューヨーク時間は午後 10 時半以降に注目

ニューヨーク時間が始まるのは、ロンドンでは午後 1 時ですが、それまでの動きが継続することになれば、ロンドン時間とは逆に動き始めることがあります。

このようにニューヨークでも最初の 1 時間半くらいはどっちに動いていくのかわからず、欧州の開始いかんと同じように様子見の動きが続くことがあります。

ですから、私たちは、ニューヨーク時間が始まったということで、すぐにエントリーしようとせず、動きの方向に決着がついた後に、その押し目や戻りを売買したほうが勝率はあがります。

ただし、ここで気を付けないといけないのは各種経済指標の発表です。

米雇用統計の発表だったり物価指数だったり、FOMC の政策金利の発表だったりすると相場が大きく動き、かつその指標の内容次第ではどっちの方向に動くのかはまるでわかりません。

そして、発表後に大きく動いた方向に、利食いをこなしながらも伸びていくこともあれば、上に大きく振っておいてからの下とか、あるいはその反対とか、相場がら高下することがあるので、FX の経験が浅い人は、指標発表後の動きは見るだけにしておいたほうが無難です。